



Otsaki
5680001
RXX

嘉永甲寅仲秋新鐫

銃劔瑣言

大槻俊齋著



國家昇平之久衆技百工無
不究其精妙而刀圭之劑在
日新月闕內外之科殆盡其
間奧焉獨銃爲之療方溢然
苦問也予有愧于此鐫今大
概後高編錄之今茲其書方

成乃告

官稟准以利布于世所造
之兒園冊子治方固非至備
况聖術日新月異吾知生後
未必為已陳之富物也雖然
閱者能從此書之素而文發

明新才講究奇術補益錄
治則處昇平之世備不虞之一
端未必無裨益是予所望也
因每卷之以告覽者

嘉永七年甲寅八月

江川太守在野心識

三以本...

...

...

...

...

...

銃創瑣言

凡例

一此書ハ西醫設劉私著ハス所ノ外科書。及ビ摸斯
篤醫事韻府書中ノ創傷篇ニ就テ。其銃創部ヲ摘
出ノ抄譯スル者ナリ。蓋シ二家ノ說ニ小シク異
同無ンバアラズ。其同ジキ者ハ。特リ一說ヲ取り。
其異ナル者ハ前後共ニ併セ舉ゲ。或ハ二說共ニ
了解シ難キ者ハ。余ガ卑見ヲ加ヘテ註文トナシ。
冠スルニ肇案ノ二字ヲ以テス。
一銃創ハ創ノ一端ナリト雖モ。其療法ニ至リテハ。

諸創ニ連互ス。故ニ諸創全篇ヲ該スルニ非レバ。未夕完備トスベカラズ。然レモ其書浩瀚ナルヲ以テ。檢閲ニ便ナラズ。故ニ特リ此篇ヲ抄譯シテ。今日ノ急ニ備フルナリ。夫諸創全篇ノ若キハ。別ニ譯シテ家塾ニ藏ス。他日ヲ俟テ梓行ヲ謀ルベシ。

一 銃創ノ療法ハ。概メ繃帶ヲ用ヒザルハナシ。蓋シ繃帶ノ術ハ亦是一科ノ學ナルヲ以テ。自ラ全書アリ。此小冊子ノ能ク盡ス所ニアラザルナリ。今爰ニ舉ル所ハ什佰中ノ一二ニ過ギズ。其全論ハ

載テ繡帶小識ニアリ。乃チ社友林洞海ノ譯述メ
未タ世ニ公行セザル者ナリ。空シク就テ業ヲ受
クベキノミ

嘉永甲寅夏四月

俊齋大槻肇謹識

[Faint, illegible text within a rectangular border, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

銃創瑣言

俊齋大槻肇譯述

○銃創ハ火藥ノ勢力ニ由テ。放射シタル彈丸。鉛片。鐵片。或ハ大小諸種ノ物ヲ體中ニ受テ發スル者ニメ。創傷中ノ最危險ナル者トス○銃丸ノ體中ニ入ルヤ。骨肉之ガ爲ニ。折裂スルノ猛勢アルガ故ニ。其部劇シク挫傷。破裂シ肇案ズルニ纖維脈管破綻スルニ平等ナラズ覺機麻シ。生機亾ビテ。火痂ヲ結フニ至ルナ

銃創瑣言

リ

○銃創ハ挫傷。綻傷ノ如ク。初メハ疼痛甚シカラズ。其出血ノ多寡ハ。動脈損傷ノ形勢ニ由ルトイヘ
 凡多クハ出血少ク。或ハ出血セザル者アリ。然レ
 凡其火痂脫離メ。膿ヲ醸スニ至リ。始メテ出血ス
 ル者亦屢之アリ。又内部出血スル者アリ。是ハ其
 證候ニ由テ鑑定スルヲ要ス○銃丸大動脈ニ中
 ルノ勢迅速ナル者ハ。出血尤甚シ創熱劇シキ者モ亦出血甚シ
 之ニ反メ。其勢緩慢ナル者ハ。挫傷破裂ハ甚シク
 メ。出血ハ卻テ著シカラズ○創傷ノ形狀モ亦彈

勢ノ緩急ニ随フテ同シカラズ。其急ナル者ハ。截
創刺創ニ類似シ。焮衝深ク侵淫ス。肇案ズルニ截
創ノ如キハ。焮
衝深カラガルナリ其緩ナル者ハ。傷害ヲ受ルノ部大ニメ。
劇シキ挫傷。破裂。鬱血等ヲ生スルナリ。○然レモ
銃創ハ。患部或ハ全身ニ多少ノ振蕩ヲ兼併セズ
ト云フナシ。中ニ就テ銃丸骨ニ中ル者。或ハ貴
要ナル内藏ノ近傍ヲ損傷スル者ハ。殊ニ然リト
ス。○腓部及ビ腓膜共ニ損傷スル者ハ。動ヤモスレ
ハ丹毒ヲ發シ。夥多ノ造膿ヲ致スナリ。唯膜部ノ
ミ損傷スル者ハ。諸症著シカラズ。神經ヲ損傷ス

ル者ハ。疼痛甚シク搖擗。昏冒。癡駭。患部ノ麻痺ヲ
發ス。一關節斷裂スル者ハ。其振蕩ニ由テ全身ノ
機能乖戾シ。終ニ危險ノ肺焮衝。肝焮衝。膿潰等ヲ
發スルニ至ル者屢之アリ○概メ之ヲ言ヘバ。銃
創ハ。先患部或ハ全身ノ麻木。不仁。眩暈。戰慄。冷汗。
嘔吐。昏冒。脈小等ノ振蕩症ヲ發シ。尋イテ創邊ノ腫
下ニ溢出セル汚液。其部ヲ刺衝シ。終ニ大焮腫。發
熱。死壞。神經症。夥多ノ醜膿等ヲ發スルニ至ルナ
リ

○銃創ノ行道ハ彈勢ノ遲速ト。患部ノ剛柔抗力ノ

差異ニ由テ曲直一樣ナラズ。腱或ハ他ノ彈力アル部ニ屈イダル者ハ動ヤモスレバ斜行ヲナストアリ。外部ヨリ之ヲ視レバ。一道ノ黯黑條ヲナスニ由テ認得スベシ。譬ヘバ風氣腫ヲ壓セバ。其氣進行スル部ニ循フテ聲アルヲ以テ知ルカ如シ○銃丸體中ニ入テハ。諸腔隙ノ被膜ノ隆窪ニ沿フテ巡行スルトアリ。或ハ其入ルト深カラザル者ハ。自カラ脱出シ。衣被中ニ轉墜メ知サル者アリ。或ハ骨ニ中リテ其内ニ嵌入セル者アリ。其丸近キヨリ來ル者ハ。屢火傷ヲ兼發スル者ナリ

○銃創ノ輕重ヲ分テ四等トナス

第一銃丸體中ニ入ラズ。皮膚モ損傷スルヲナシ

トイヘ凡。卻テ深處ヲ損傷シ。筋肉ヲ挫傷シ。甚シ

キハ骨體ヲ破碎スルニ至ル者○彈勢弱クメ十

分ナラザル者。或ハ銃丸斜ニ身體ヲ掠過スル者。

此症ヲ發ス。所謂響裂創是ナリ

○彈丸。銃腹ヲ迸出シ。或ハ空中ヲ飛衝スルノ間

ニ。受ル所ノ越^エ列^レ幾^キ的^テ爾^ルヲ放チテ。之ヲ人體ニ射

下スル片ハ。所謂響裂創ヲ發スルナリ。蓋越^エ列^レ幾^キ

的^テ爾^ルハ唯火藥初裝ニ方リテ。銃腹尚乾ケル時ノ

ミ之ヲ發シ。再裝ニ至リテハ。銃腹焚熱シ。水素瓦^ガ
斯^スヲ生ズルニ由テ之ヲ發スルナシ。律私^ユ篤^{スト}人^名

及ビ貌^ビ私^ス人^名ノ說ニ據レバ。彈丸。人體ヲ掠過スル

片ハ。恰^モ吸角子ヲ貼スルガ如ク。其部真空トナリ。

空氣ノ壓力込失スルヲ以テ。體中ノ氣血。體外ニ

流出セントメ。腫脹ヲナシ。遂ニ血液皮下ニ溢出

シ。若クハ出血スルニ至ルト云フ。肇云ク人畜ノ

走メ倒レズ。身體ヲ保續スル所以ノ者ハ。體中ノ

氣ト體外ノ大氣ト互ニ相抗抵メ。休マザルニ因

ル。然ルニ本文ノ如ク。銃丸逆飛ノ時ニ方リテ。體

外ノ氣。真空トナリ。空氣ノ壓力込失スレバ。體中
ノ氣。平均ヲ得ンガ爲ニ。其部膨脹シ。遂ニ破裂ス
ルニ至ル者ナリ。是吸角子ヲ貼スルニ方リテ。其

角子内ノ氣ヲ脱メ身體ニ貼スレ
バ其部膨脹スルト同一理ナリ
或ハ響裂創ハ

銃丸ノ末力ニ至リ。或ハ反射メ。其力微弱ナル者。

皮膚脆軟ニメ。交感シ易キ部ニ。直ニ觸ルハニ由

テ發スト云。刺爾勒ヒト人ハ唯皮下ノ緻密ニメ。脆薄

ナル部ヲ。破裂毀傷スルニ由ルト云フ

第二銃丸肉裏ニ入り懸留メ出テス。唯一創口ヲ

ナス者

第三銃丸洞貫メ。二創口ヲ爲ス者。一ハ呑口ト云

一ハ吐口ト云フ。呑口ハ挫傷スルヲ劇シク。其周

邊壓入シ。之ヲ吐口ニ比スレハ。甚夕狭小ナルヲ

以テ之ヲ知リ。吐口ハ濶大ニメ周圍破裂シ。其形
不齊ナルヲ以テ之ヲ知ル。○又呑口一ニメ吐口
數個ナル者アリ。是數個ノ物體ヲ一團トナス者。
體中ニ入テ飛散シ出ル片ハ。殊ニ此症ヲ發スル
ナリ

第四煩丸。一關節。或ハ他ノ一部ヲ打碎シ。或ハ全
ク脫離スル者

○銃創ヲ分テ單復ノ二種トス。○單ナル者ハ。唯貴
要ナラサル軟部ノミヲ損傷シ。復ナル者ハ。脈管
神經。腱骨等ヲ損傷スル者是ナリ

○銃創ハ多ク創内ニ異物ヲ挾雜ス。即チ銃丸私格羅ロ多ト肇案スルニ。私格羅多トハ。廢鐵器碎鐵等ヲ聚合メ丸トナス者ヲ云フ。鉛片鐵片衣片骨片等是ナリ。○銃丸ノ彈力弱キ者ハ。創内ニ衣片ヲ壓入スルト每ニ多シ。其彈力强キ者ハ。其勢モ亦迅速ナルヲ以テ。之ヲ壓入スルト少ク。多クハ唯衣上ニ裂痕ヲ見ルノミ

○前定

○銃創單純ナラザル者銃丸ノ重力ト。其彈勢ノ迅速ナルトニ由テ。廣大ノ毀傷ヲ爲ス者創部ノ覺機敏捷ナル者創部貴要ナル者皆凶徴ナリ。○私

格^コ羅^ロ多^ト。鉛片鐵片等ニ由ルノ創ハ。大丸ニ由ル者
ニ比スレバ。最危險ナリトス。蓋^シ私^ス格^コ羅^ロ多^ト等ハ。深
ク肉中ニ侵入シ。其創孔狹隘ニノ。拔出シ難キヲ
以テナリ。○總テ銃創ニ於テ恐怖スベキ者ハ。振
蕩ニ繼發スル諸症。炊衝ノ劇症。死壞夥多ノ膿
等はナリ。又兼テ時令ト居處トニ注意スベシ。乃
精神病。流行病。傳染病。病院ノ壞疽。破傷風及ヒ其
變症。患者病院中ニ雜集スル等はナリ

○療法

○銃創ノ急ニ其部ヲ截斷スルニ及ハズ。又其出血

ヲ遏止スルニ及バザル者ハ。創孔ノ行道ト。創内ニ在ル所ノ異物ヲ仔細ニ探索スルヲ第一療法トス。其他創内ヲ探索シ。異物ヲ拔去スルノ法ハ下ニ出セリ

○銃創ヲ切開スルノ法ハ。古今一般ニ稱用スル所ナリ。此法ハ創内ヲ探索シ器械或ハ手指ヲ以テ探索ス異物ヲ去リテ。發熱。焮衝。神經症。膿ノ誘因ヲ除クノ外。尚之ヲ必要トスル者六アリ

第一 堅キ腱膜ヲ被フ處。譬へバ項。肩。脊椎。前腕。手掌。股ノ前面。及ビ外面。脚。足。蹠等ニ創ヲ受ル者○

斯ノ如キ部ニ於テハ。其腱膜ヲ切開メ之ヲ弛ム
ベシ。然ラサレバ。腫起増進スルニ隨テ必_ス畏ルベ
キ引縮ヲ發スレバナリ

第二 膨脹シ易ク。常ニ危殆ノ失血ヲ致スノ部。卽_チ
陰囊ノ如キ是ナリ

第三 腱部。纖維部。神經等或ハ半截シ。或ハ大ニ損
傷スル者。○斯ノ如キ者ハ。之ヲ切開メ。疼痛ヲ鎮
靜シ。痙攣ヲ預防スベシ

第四 出血甚シキガ爲ニ。脈管ヲ暴露メ結紮スベ
キ者

第五 銃丸關節内ニ嵌入ストイヘ凡。其部截斷シ
難キ者

第六 銃丸彼此ノ腔處ニ達シ。其空隙ニ瀦留セル
淤血ヲ漏泄シ。或ハ弛緩セル脈管内。及ビ蜂窠體
中ニ鬱積シタル汚液ヲ洩スベキ者是ナリ

○ 切開術ヲ行フベキ症ヲ再ビ左ニ揭示ス

第一 一創孔ノ皮下ニ在リテ。長カラサル者ハ。其
孔ニ浴フテ。之ヲ切開スベシ 第二 銃丸深ク肉中
ニ直入スル者ハ。筋ノ位置ニ從フテ創口ノ上下
ヨリ外廣ク。内漸ク狭ク切開メ以テ。銃丸ニ達ス

ベシ **第三** 創孔深クメ殆後面ニ及フ者ハ。對口ヲ
開キテ前後ヲ切開スル。第二法ノ如クスベシ
○皮膚些モ損傷セズメ皮下破碎スル者ハ。銃丸
體中ニ入^ラサル者ニ之アリ 肇案スルニ 此症ニ於
テハ患部ヲ切開メ創口ヲ作り。釀膿セシメテ之
ヲ愈スベシ ○銃丸骨膜ヲ挫傷スル者ハ。腐骨疽
ヲ發シ易シ。此症ニ於テハ銃丸ヲ拔去リ。其骨膜
ヲ切テ釀膿ヲ防キ。或ハ穿骨錐 **第十二圖** ヲ以テ。
銃丸衝當セル地ニ一孔ヲ穿キテ。汚液排泄ノ道
路トスベシ

○銃創ヲ切開スルノ法ハ。病末ニ於テモ亦必要ノ者トス。乃其膿ヲ排泄シ易カラシメ。脱離シタル骨片。或ハ他ノ異物ヲ除去セシメンガ爲ナリ。此法ヲ行フニハ球頭毘私多里ヒストリ第一圖ヲ取り。左手ノ食指ニ添へ。或ハ湟消息子ミゾサグリ第三圖ニ上セ創内ニ插入メ。切開スヘシ。但其法ハ。各部ノ位置ト銃創各種ノ形狀ニ從フテ處置スベキナリ。

○創孔ヲ檢査メ。大血管損傷セサルヲ證スル片ハ。適當ノ壓定法ヲ用ヒテ。出血ヲ遏止スルヲ良トス。○若出血止マザル者ハ。創口ヲ切開メ血管

ヲ結紮スベシ。之ヲ切開ストイヘ。尚切要ノ血
管ヲ結紮スルヲ得ザル者ハ。創口ノ上部ニ於
テ。之ヲ剥露メ結紮スベシ。
○銃創ノ療法ハ。上ニ記スル所ノ外。損傷ノ療法ニ
異ナラズ。乃軟綿撒系ヲ覆ヒ。或ハ軟膏ヲ塗リ夕
ル綿撒系ヲ創内ニ充填メ。緩繃帶ヲ施シ。釀膿ヲ
促シ。火痂ヲ褪落セシムルヲ要ス。但精烈液ヲ注
入シ。小條子ハルズノール。獸腸線ダルクスノール。毛線子等ヲ創内ニ插入スル
ノ法ハ。釀膿ヲ促シ。火痂ヲ褪落スルニ害アリ。唯
治療ノ終リニ至リテ。創孔ノ愈著ヲ促サンカ爲

二之ヲ用フベキ者。稀ニ之アリ。○創口ノ周圍ハ。冷水。礮砂水ノ如キ。解凝ノ効アル者ヲ用ヒテ蒸溺スベシ。

○全身療法ハ患者ノ體質ト。焮衝ノ度ニ注意シ。常ニ消焮法ヲ行フベシ。然レモ軍卒タル者。常ニ神志抑鬱シ。頤養匱乏ニメ。精力振ハガルヲ以テ。其衰弱ニ傾キ易キヲ。猶釀膿ノ後。生力疲憊スルガ如シ。是ヲ以テ慢ニ消焮療法ヲ過用スベカラズト云フヲ遺忘スルヲ勿レ。○若振蕩ノ傷症著シキ者ハ。精細ニ注意スルニ非レバ此消焮療法

ヲ行フベカラズ。是此症ハ始メヨリ既ニ衝動興
奮劑。適當ナレバナリ

○焮腫劇甚ナル者ハ。釀膿ヲ促サニガ爲ニ。冷水礮
砂水等ノ蒸漏ヲ停メテ。温ナル緩和^ゴ布ヲ用フ
ベシ。○既ニ釀膿スル片ハ。腐痂脫離メ。從來過閉
セル血管始メテ出血ス。○醫ハ先創ノ方向ヲ視
テ。出血スベキヤ否ヤヲトシ。若^シ其恐レアル者ハ。
側^ラニ一介老練ノ扶者ヲ置キ。出血スルニ臨テ其
血管ヲ壓定シ。或ハ之ヲ結紮メ閉止スベシ。○其
出血ニ諸液ノ逼迫増進^{肇案スルニ血液頭腦ニ}
迫進スルヲ云ナルベシ

ト生活機能ノ亢進ヲ兼ル者ハ寒罨法及ビ瀉血
ヲ要ス

○銃創ノ膿液ハ初メ稀薄ニメ其色蒼ク。或ハ惡色
ヲナシ。褪落シタル火痂ニ由テ汚穢ヲナス。然レ
イ氏後終ニ良膿トナル者ナリ。○此時ニ於テハ。或
ハ又溫^{ゴツ}琵琶布^ブヲ創上ニ貼シ。布片ヲ覆ヒ。壓定巾ヲ
置キ。其上ニ緩繃帶ヲ施シ。患部ニ適宜ノ位置ヲ
得セシムベシ。良膿始メテ見ル、ニ至リテハ。乾
布片ヲ貼メ繃帶スベシ。若^シ良膿見ハレザル者ハ。
バル拔爾撒謨劑^{サム}及ビ收斂藥煎ニ漬シタル布片ヲ貼

スベシ。○釀膿ノ時ニ於テ炊衝再發スルヲ屢之
 アリ。爾時其膿惡性トナリ。或ハ釀膿全ク遏止シ。
 創孔將ニ收ラントスル者。再タビ開咳スルニ至
 ル。此症ハ通常。創内ニ骨片等ノ異物懸留スルニ
 由ルナリ。故ニ是等ノ異物殘留スルヲ見ハ。速ニ
 之ヲ除キ去ルベシ。若除去シ難キ者ハ。貫線打膿
 牽索スルニ貫線打膿ハ膿瘍ニ行フノ法ナリ。其
 法。指ヲ以テ膿瘍ヲ壓シ。之ヲメ十分ニ膨脹セシ
 メ。微シク曲リタル三稜鍼ノ銀管ヲ具ヘタル者
 第十五圖ヲ取リ。先銀管ニ油ヲ塗リ。之ヲ瘍ノ下
 部ニ接シ。鍼ヲ管内ニ入レテ。傷皮ヲ穿破シ。鍼ヲ
 退ケテ管内ニ收メ。鍼尖ノ傷肉ニ觸ルヲ護シ。
 又其管ヲ瘍内ニ進メテ。上部ノ内面ニ達セシメ
 再タビ鍼尖ヲ推シ出シ。皮膚ヲ穿破メ外部ニ達

シ鍼ヲ上部ニ拔出シ。管ヲ下口ヨリ拔去リ。其鍼
 眼ニ貫キタル線ヲ傷中ニ串シ打膿セシムル十
 リト。此說ニ據レバ。之ヲ銃創ニ用フルニハ。鍼ヲ
 創口ヨリ進メテ。便地ヲ撰ミ。外部ニ洞穿スベシ。
 ヲ施メ。骨片及ビ膿ノ排出ニ便路ヲ得セシムル
 ヲ最良法トス。○創膿漏泄ノ後。焮衝尚殘留セル
 乎。或ハ新ニ焮衝ヲ發シ。創面腫起メ。知覺敏捷ト
 ナリ。釀膿減スル者アリ。是不當ノ療法ニ坐ス。譬
 ヘバ綿撒糸ヲ誤用スルニ由ルガ如シ。此症ハ唯
 鎮靜止痛劑ヲ以テ治スルヲ得ベシ。○創部ノ
 生力適度ナラザル者。體質弛緩ナル者殊ニ此症ニ罹リ易シ。創縁軟
 ニメ光澤ヲ失ヒ。惡色ニメ知覺ナキ者。水ノ如キ

汚穢ノ稀膿ヲ漏泄スル者等ハ。多少ノ刺戟劑ヲ
用ヒテ良効アリ。其劑ハ化膿軟膏。拔施^{バシ}里膏^{リコウ}。的列^{テツレ}
竝^ビ油。槲皮煎。幾那煎等ニ沒藥丁幾ヲ加ル者。或ハ
地獄石ノ濃溶液ニ綿糸絛ヲ漬シ。創内ニ插入ス
ル等是ナリ。○是等ノ諸藥効ヲ奏セル時。溫蒸劑
ヲ行ヘバ必^ス生力ヲ奮發メ良膿ヲ釀成シ。兼テ膿
液ノ流泄ヲ自由ニシ。繃帶ノ爲ニ發スル所ノ苦
痛ヲ免レシムル者ナリ。○創口殆^タ愈著ストイヘ
ル。膿液ノ流泄。尚^タ停^マザルノ間ハ。其口破綻シ易
ク。又僅ニ消息子ヲ插入スルモ。亦能ク破綻スル

者ナリ○肉阜恣ホシイマニ滋息スル者ハ。地獄石ヲ塗擦
シ壓定帶ヲ施スベシ

○銃創ニ骨傷ヲ兼子。截斷スベキノ徴アレ凡。直チニ
之ヲ行フヲ得ザル者ハ。其治療容易ナラスメ。
時日ヲ彌ワラザルヲ得ズ。其創口廣クメ碎骨ヲ去
ルニ便ナル者ハ。即チ之ヲ拔去リ。其骨片尚本骨ヲ
離レザル者ハ。之ヲ本位ニ復メ。直チニ其骨傷ヲ脩
整シ。斯鳩爾スキエール的多ト人ノ壓定帕第六圖及ビ木製ノ
大副木ヲ用ヒテ。纏繞帶湊合帶ヲ施スベシ。然レ
凡創部ノ腫脹尚甚シク。筋尚引縮セル者ハ。之ヲ

施スベカラズ。○此繃帶ヲ施スモ。尙未_ズ其骨端ノ
 移動ヲ防グニ至ラザルニ。若_シ患者ヲ他方ニ送り
 遣ル_ルハ。患部ヲ半屈メ。其筋ヲ弛メ。斯_ス鳩_キ爾_ル的_テ多_ト
 名_ノ繃帶ヲ用ヒテ患部ヲ包裹シ。其骨端ノ大ニ
 分開セントスルヲ防グベシ。○骨傷ヲ脩整スル
 ニハ。全身及ビ局處ノ適當療法ヲ施シ。焮衝ノ諸
 症消散メ後。始メテ之ヲ行フベシ。○股脚ノ骨傷
 ニハ。特_テ騷_{サウ}爾_ル多_ト名_ノ人_ノ副木。或ハ背_{ボイ}耶_エ爾_ル名_ノ人_ノ騷_{サウ}的_テ爾_ル名_ノ人_ノ
 ノ器械ヲ用ヒテ。不斷其部ヲ拏伸スルハ。尤缺ク
 ベカラザルノ要法トス。但之ヲ行フニハ。最精細

注意セズンバアルベカラズ。肇云ク特驛爾多
 的爾名等ノ器械ヲ圖示スベキガ如シトイヘ氏。
 其器皆錯雜ニ施シ易カラザルヲ以テ略シテ
 出サズ。唯簿倫紉倔褒旃ノ稱用シタル
 簡易ノ法ノミヲ舉グ。第四圖ヲ見ルベシ。○骨端
 ノ愈合ヲ遲滯セシムルノ原因ハ。夥多ノ釀膿傷
 骨ノ復故適宜ヲ得ザル者。創内ノ異物及ビ腐骨
 等はナリ。○釀膿夥多ニメ。患者之カ爲ニ疲勞ス
 ル者ハ。時ヲ相メ之ヲ截斷スベシ
 ○創處ノ釀膿經久ナルニ至リテハ。其全面ヨリ出
 血スル者多シ。其出血數次ニ及ブ者ハ。之ガ爲ニ
 甚ダ疲勞ヲ致スナリ。斯ノ如キ出血ハ。一ハ脈管

ノ衰弱ニ關リ。一ハ血液溶崩ニ係ルナリ。○此症
ニ於テハ。全身局處共ニ強壯療法ヲ主トス。即₊内
服ニハ幾那。礦酸ヲ用ヒ。良性食物ヲ喫セシメ。外
氣ヲ清淨ニシ。榭皮煎ニ明礬ヲ溶シタル藥汁ニ
綿撒糸ヲ漬シ。創内ニ充填スベシ。○此方法ヲ行
ヘドモ。尚寸効ナク大ニ疲勞セントスルノ恐れ
アル者ハ。截斷術ヲ行フベシ。然レ_レ先_ツ試ニ烙鐵
ヲ施シ或ハ其部ノ動脈幹ヲ結紮スルヲ一良法
トス

○銃創ニ於テ何レノ症カ。截斷術ヲ行フベキヤ否

ヤヲ鑑定スルノ難シ。帝ニ創傷ノ輕重ト。患部ノ
要否トニ注意スルノミナラズ。其患者ヲ他方ニ
送り遣リ。或ハ看護乏シキニ遭ヒ。或ハ病院ニ群
居シ。或ハ軍卒病院ニ。創者群居スルノ處ニ。淹留
スルニ由テ。起ル所ノ障碍ニ就テ。其部ヲ保持メ
可ナラン乎。將^{ハタ}截斷メ可ナラン乎。其底止スル所
ヲ諒知セスンバアルヘカラズ。是軍卒ニ在テ多
ク生スル所ノ事件ナリ。○患部損廢メ。卻テ累ト
ナルモ尚保持スルヲ得ベキ乎。勉メテ其部ヲ
保持セントメ。卻テ其生命ヲ併セテ。危篤ニ陥ラ

シムル乎ヲ。考究セン^トヲ要ス

○銃創ノ景況。截斷ヲ要スル者ハ。卽之ヲ行フベシ。

其時ヲ移スモ。續發症

肇案スルニ。銃創ニ續發スル疼痛。痙攣等ノ如キ諸症

ヲ云^フ。起スノ前。六時ヨリ十二時ヲ過ベカラズ。

是此時ニ方リテハ。神經壓迫セラレテ。疼痛微ナ

ルヲ以テナリ。往昔ノ外科ハ。病末ニ於テ。截斷ヲ

行フヘキノ説アリ。是方今ノ實驗ニ相反スルナ

リ

○受創後。直ニ四肢ヲ截斷スベキノ症ヲ左ニ列ス。

第一 一部全ク分裂スル者 ○斯ノ如キ損傷。殊ニ

彈勢已ニ減卻スルニ由ル者ハ。骨ノ破碎。常ニ近傷ノ關節ニ延及スルヲ以テ。遠ク創處ヲ距リテ截斷シ。或ハ近傷ノ關節上ニ於テ截斷スベシ

第二 一肢ノ骨肉毀傷シ。或ハ挫傷メ死壞ヲ發セントスルヲ確定スル者

第三 骨部損傷セズメ。肉部竝ニ貴要ノ脈管神經。多ク消失スル者

第四 動脈大幹損傷セザルモ。一部ノ骨肉貴重ナル神經ト共ニ其周圍分裂破碎スル者

第五 外皮挫傷スルヲナクメ。大骨破碎シ。脈管ノ

破裂ト。深部ノ挫傷トヲ兼ル者肇案スルニ響裂創ナリ○此
症ニ於テハ、截斷ヲ行フノ前、先其部ヲ十分ニ切
開メ、其形狀ヲ覈知スベシ

第六 諸關節殊ニ膝踝等ノ關節、全ク破傷シ。囊狀
靱帶、甚シク破裂シ。骨部破碎スル者、或ハ銃丸關
節内ニ嵌入メ、拔去スルヲ能ハザル者○骨頭、骨
ヨリ折斷セル者ハ、其骨頭ヲ除去スベシ。乃ナ膊骨
斷裂スル者ハ、肩ノ關節ニテ骨頭ヲ去リ。股骨斷
裂スル者ハ、胯關節ニテ之ヲ去ルガ如シ○又治
療ノ間、死壤ヲ發シ他藥ノ力及ブベカラザル者

ハ皆截斷術ヲ行フベキ者ナリ
上ノ諸症ニ於テ。截斷術ヲ行フ。愈^{イヨク}早ケレハ其
成功愈吉ナリ。唯患部ノ振蕩劇甚ナルカ。或ハ全
ク強直トナリ。厥冷メ知覺ヲ失フ者ノミ。先刺戟
藥ヲ用ヒテ。之ヲ奮發スベシ。然レ斥直^チニ續症ヲ
發メ截斷術ヲ行フベカラサル者ハ。先適當ノ療
法ヲ施シ。釀膿ノ時期ニ及テ。患者大ニ安靜トナ
ルヲ候ヒ乃^ナ之ヲ行フベシ
○創ノ形狀。直^チニ截斷術ヲ行フベカラザル者。他日
截斷ヲ要スルニ至ルベキヤ否ヤ。又截斷ヲ要ス

ルニ至レバ。何等ノ續症ニ由テ。之ヲ行フヘキヤ。
預メ之ヲ決定スルヲ能ハズ。其截斷ヲ要スル續
症ハ卽**第一**患部ノ死壞**第二**神經諸症。搐搦。強直
等ノ其因。創内ニ在テ他術ヲ以テ。除去スルヲ能
ハザル者。**第三**釀膿ニ由テ身體衰弱スル者。**第四**
創ノ全面ヨリ出血シ。鎮止スルヲ能ハザル者等
是ナリ

○創傷止血ノ後ハ。創孔ヨリ異物ヲ除去スルヲ專
務トス。其異物ハ。砂石。衣片。銃丸。器械ノ碎片。及ヒ
骨片等ナリ。蓋異物ヲ除去セザレバ。愈創遲滯メ

焮衝。釀膿死壞及ヒ神經諸症ヲ將出シ來ルヲ以

テナリ ○創内ヲ精査シ。異物固著スルヲ見ハ。先

ツ之ヲ遊離シ。肇案スルニ。鐵蔑鐵小鑷子第二圖

彈引子第七圖 第八圖 第九圖 曲リタル鼻痔鑷子

第十圖 ヲ用ヒテ。拔去スベシ。伯西人稱譽セル

切要ノ品トス。此器ハ匙。然レ。疝膜肉ヲ併セテ。共

タング。螺錐ノ三ヲ具フニ抽撥スルヲ勿レ。必粗暴ニ之ヲ行フヲ勿レ ○

異物深入メ殆後部ニ近キ者ハ。對口ヲ開キテ。除

去スベシ。若其吐口アル者ハ。必之ヲ吐口ヨリ拔

去ルベシ。是異物ハ。常ニ近ク吐口ニ在ルカ故ナ

リ○創ノ形狀異物ヲ除去スルニ便ナラザル者
 ハ。小刀ヲ用ヒテ切開シ適宜ヲ得セシムベシ○
 銃丸及ビ其他ノ異物骨内ニ嵌入セル者ハ。穿骨
 術ヲ行フベシ。其骨面ニ在ル者ハ。鐵篋スベシ或ハ鐵棍ニ在ル
 第十二圖ヲ用ヒテ。挑出スベシ。深ク骨内ニ在ル
 者及ビ兩骨間ニ嵌入セル者ハ。穿骨錐テ第十二圖
 帽頭穿骨錐コロン第十三圖螺錐コケル第十四圖ヲ用フベシ。
 之ヲ用フルモ。尚抜ク一能ハサル者ハ。他日ノ釀
 膿ニ委任メ。自カラ脫離スルヲ待ツベシ。之ヲ鑿
 錐顛錐等ヲ以テ。強テ除去スルニ比スレバ。大ニ

優レリトス。然レ凡顛骨内ニ嵌入セル者ハ。此器
ヲ用ヒテ拔去スルヲ必要トス。○骨片ノ如キハ。
其全ク脫離スル者ヲ拔出シ。尚其本骨ニ繫著ス
ル者ハ。之ヲ本位ニ復メ拔出スルヲナク。自カラ
愈ルヲ待ツベシ。若然カラザル者ハ。他日ノ釀膿
ニ由テ脫離スルニ至ルナリ。○異物ヲ拔出スル
ニ就テ常ニ最意會スベキヲアリ。乃チ異物。蜂窠體
ニ圍包セラレ。妨害ヲ生ゼス。遺留セル者稀ニ
之アリ。或ハ他日行路ヲ取りテ一處ニ沈墜シ。終
ニ壓迫。炊衝。釀膿等ヲ致ス者亦屢之アリ。○異物

ヲ棄置メ拔出セザルヨリハ。之ヲ拔出メ卻テ害
ヲ致ス者アリ。或ハ創傷。既ニ大ニ腫脹シ。酷剥ノ
手段ヲ費^スニアラザレバ。拔去スル^レ能ハザル者
アリ。或ハ異物。大血管ニ迫切スル者アリ。是等ノ
症ニ於テハ拔去スル^レ能ハザル者ナリ。○膜部
劇シク腫起シ。且挫傷スル者ハ。精烈液。或ハ搨皮
煎。或ハ礪砂醋。或ハ底電^{テイデン}愈創水ヲ以テ。其部及ビ
全肢ヲ洗滌シ。又釀膿夥多ナル者ハ。其流泄ヲ減
少センガ爲ニ。乾布片ヲ置キ其上ニ固定繃帶ヲ
施スベシ。○創内ニ脈動アリテ後出血スル者ハ。

幾那刺答尼ニ或ハ揚皮煎ニ明礬ヲ加ル者。若クハ收斂亞篤爾ニ漬タル綿撒系ヲ置キ繃帶ヲ施シ。又此諸藥ヲ内服シ。劇甚ノ出血ニハ「ト」リ子ト

第十七圖

ヲ施シ。或ハ動脈ヲ結紮スベシ。○若創

部ヨリ遠隔ノ處ニ釀膿スル者ハ其膿瘍ヲ破開スベシ。例スルニ諸關節ニ發スル者ノ如シ。

全身療法ハ病室ノ氣ヲ清淨ニシ。腸胃ノ汚物ニ注意シ。患者各自ノ性質ト其生力ニ從フテ之ヲ施スベシ。然レ凡通常強壯滋養劑ヲ良トス。即幾那括矢亞苦味越幾斯ス或ハ肉羹汁。麥酒羹汁ニ雞

子黃ヲ加ル者。或ハ沙護^{サーゴ}沙列布^{シャリフ}亞爾羅^{アールロ}鹿角膠^{ロウカクカウ}蒲
萄酒等ヲ用フベシ。膿潰甚シキ者。及ヒ失血夥多
ノ症ハ。此諸品殊ニ缺クベカラザルナリ。又疼痛
劇シキ者ハ。麻醉藥殊ニ阿芙蓉ヲ良トス。○患部
死壞狀トナル者ハ。脫疽ノ療法ニ從フテ之ヲ處
置シ。止ムトヲ得スハ截斷法ヲ行フベシ。

○肩頭ノ截斷帶

○凡、繃帶ヲ行フ前。創口ノ凝血ヲ滌除シ。後其創縁
ヲ互ニ聚合メ。膠膚膏ヲ貼シ。或ハ鍼ヲ以テ縫合
ス。其創上ニハ。綿撒糸。壓定帕ヲ置キ左ノ繃帶ヲ

施メ之ヲ固定スベシ。

第一法

○蒲魯謨ブルム瑟爾ヒル獨ド名人ハ二重ニシタル四角ノ布片イ

ヲ取り。一系ヲ以テ其上端ヲ重縫シ。其系端ヲ牽ヒ

テ稍布片ノ上端ヲ縮メテ穹形フリカミテヲ作り。其兩隅ニ

長一丈三尺ヨリ二丈幅三四指横徑ノ二帶子

口ヲ固縫シ。其下端ニモ亦二帶子

第十六圖ノ如シ。

○其布片ノ穹形ノ處ヲ肩頭ニ被ヒテ。脱落セガラ

シメ。前ナル帶子ヲ取り。肩ヲ越テ背後ニ送り。後

口ナル帶子ヲ胸前ニ送り。肩上ニ於テ又狀ヲナシ。其兩端ヲ無病ノ腋下ニ於テ。又又狀ニシ。更ニ復^マ創部ニ送り遣リ。帽子針ヲ以テ固定スベシ。○
下端ノ帶子ハ前ナル者ヲ。横ニ胸ニ送り。後ナル者ヲ横ニ背ニ送り。無病ノ腋下ニ於テ又狀ニ交過シ。爾後其肩上ニ送りテ。又又狀ヲナシ。再タビ創部ニ送りテ固定スベシ

○
第二法

○
不^フ蝟^ラ涅^子或ハ棉ノ長^サ八尺。幅八寸ノ者ヲ取り。其正中ニ於テ。上端ヨリ三指横徑ヲ距リ。縱^クニ八寸剪

リテ。膊ヲ貫ク可クナス。○其正中ヲ無病ノ腋下
ニ置キ。膊ヲ剪截ノ内ニ貫通シ。布帶ノ一端ヲ胸
上ニ沿フテ送り。他ノ一端ヲ背上ニ沿フテ創部
ニ送り。其兩端ヲ縱ニ剪裂メ四頭トナシ。創上ニ
於テ兩方ヨリ又狀ニ交過シ。之ヲ掣引シテ。前ノ
二頭ヲ背後ニ送りテ固縫シ。後口ノ二頭ヲ胸上
ニ送りテ固縫スヘシ。○此簡易ノ繃帶ハ。啻ニ創
部ヲ覆フノミナラズ。亦能ク繃帶諸具ヲ固定シ。
其掣引ニ由テ。能ク創脣ヲ接合シ。膠膚膏或ハ縫
合法ノ力ヲ援クルナリ。

○膊ノ截斷帶

○截斷術ヲ行ヒ了リ。既ニ動脈ヲ結紮メ後。海綿ヲ

微温湯ニ漬シテ。創内ノ凝血ヲ滌除シ。扶者ヲノ

皮ト筋トヲ創口ニ向フテ推送セシム。○皮筋ノ

反縮ヲ防クカ爲ニ。極メテ高ク膊ニ螺旋帶ヲ施

シ。其截斷殊ニ膊ノ上邊ニ在ル者ハ。胸ニ至ル迄

繃帶ヲ施スヲ要ス。○繃帶ハ上ヨリ創口ノ近傍

ニ至ル迄螺旋狀ニ施シ。創脣ヲ互ニ密接メ。一裂

ノ縦創ノ如クナスベシ。○動脈ヲ結紮セル系端

ハ。創ノ上隅若クハ下隅ニ送り。一片ノ靱膏ヲ以

クテキス

テ皮膚ニ固結シ。創口ハ膠膚膏ニテ接合シ。其上
 ニ蠟膏ヲ塗りタル綿撒糸ヲ置クベシ。○創縁ノ
 接合ヲ善クシ。膠膚膏ノ力ヲ扶シカ爲ニ。創ノ兩
 側ニ長八寸。幅二三指横徑ノ布片各一個ヲ置キ。
 繃帶ヲ二三回繞ラシテ之ヲ固定シ。其布片ノ端
 ヲ中間マテ分裂シ。創上ニ於テ又狀ニ交過シテ。
 適宜ニ固ク掣引シ。繃帶ノ餘殘ヲ以テ之ヲ固定
 スベシ。

○股骨頸ノ骨傷帶

○簿倫^ブ紉^リ倨^ニ褒^シ旃^カ^ガ名^カノ繃帶法ハ。甚ダ簡易ニメ唯病

股ヲ無病股ニ固持スルノミニメ足レルノ法ナ
リ。乃^チ患者ヲ褥上ニ伸卧セシム。斯ノ如ク卧サシ
ムル片ハ。醫筋ニテ大回轉ヲ關節内ヨリ掣引シ。
傷骨ヲ互ニ接近スルヲ以テ此症ニ切要ナリト
ス。若^シ之ヲ屈卧セシムル片ハ。醫筋必^ス大回轉ヲ移
動スルナリ。○病股短縮セサル者ハ。其外反セル
ヲ再タビ内方ニ回轉シ。直^チニ繃帶ヲ施スベシ。此
症ノ如キハ此繃帶ニテ全愈ニ至ル者ナリ。然レ
凡病股短縮シ。傷骨端齟齬セル者ハ。正伸對伸法
ヲ行フベシ。其法強帶ヲ兩脚ノ間ニ貫キ。無病ノ

部ニ浴フテ扶者ヲメ上ヨリ之ヲ保持セシメ。又
 他ノ扶者ヲメ膝ヲ握ラシム。○骨傷右脚ニ在ル
 者ハ。醫左手ヲ股下ノ内部ニ置キ。右手ヲ膝上ノ
 外部ニ置キテ兩扶者ヲメ脚ヲ引カシム。○爾時
 醫左手ニテ股ヲ引テ。體ヨリ離シ右手ニテ股ノ
 下部ヲ内方ニ推シテ。傷骨ヲ肉部ヨリ去ラシメ。
 壓踏按摩メ故ニ復セシム。○病股自然ノ長ヲ得
 タルハ。左手ニテ大回轉ヲ推シ。右手ニテ其股
 ヲ無病股ニ向ケテ推シ。兩股ヲ膝上ニテ固ク縛
 定スベシ。○此繃帶ノミニテハ。固定十分ナラザ

ルニ由テ。革製或ハ木製ノ副木ヲ病股ニ置キテ。
無病股ニ繙縛スベシ。第四圖甲其副木ハ股ノ外
面ノ形狀ニ從フテ。十分凹窪ヲナスヲ要ス。即チ上
部ハ大回轉ヲ容ルベキノ小窪ヲ造リ。下部ハ膝
ノ外面ヲ容ルベキノ大窪ヲ作ルベシ。若シ副木股
ニ密接シ難キ處アル片ハ。小枕子ヲ用ヒテ布填
シ。シ。傑ゲ私ス布ブノカ子チヲ具ヘタル鞞帶ヲ副木ノ上下ニ附ケ。
第四圖乙其上ナル者ハ。副木ヲ腰部ニ固結シ。其
下ナル者ハ。兩股ヲ膝上ニテ固結シ。兩膝兩内踝
ノ間ニハ。軟ナル厚枕子或ハ馬毛ヲ充ミタル革環

ヲ置テ。壓迫疼痛ヲ防グベシ。○能病股ヲ伸メ。保

持スルニハ。絹棉ヲ以テ絢ナヘル索帶子第四圖丙

ヲ取り。踝上ヲ二轉メ内踝上ニテ一結シ。兩端ヲ

無病足ニ縛スル一。鐙肇案スルニ西洋人用フル

類メ。今ノ製ニハ異ナリ。ヲ踏ガ如スベシ。○無病脚ヲ伸シ置

片ハ。病脚ハ自カラ能伸ル一。第四圖甲ニ於テ見

ルガ如シ。既ニ繃帶ヲ行フノ後ハ患者ヲ仰イテ

伸卧セシムルヲ佳トス。然レモ頭胸ヲ高クスル

ハ宜シカラズ。踵下ニハ軟ナル厚枕子ヲ置キ。疼

痛ヲ防クベシ。○患者側卧ヲ好ム片ハ。無病股ヲ

○下ニメ卧サシムベシ。是疼痛ナク。又危険ナルナキナリ。○病初ニ於テ。腫脹挫傷アルカ爲ニ。解凝ノ蒸溺藥ヲ用フルカハ。膝上ノミヲ縛シ。之ヲ施スノ間ハ。副木ヲ除去メ可ナリ。○患者安靜ナラズ。且煩悶等ノ症アルカハ。傑私布ゲスブヲ具ヘタル革帶ヲ以テ脛ヲ縛シ。膝ノ屈曲ヲ防グベシ。

○此繃帶ハ斯ノ如ク簡易ナルヲ以テ。特騷爾ゲサウル多ト人名ノ繃帶ノ復襲錯雜ニメ。施シ易カラザル者ニ比スレバ。其効大ニ優レリ。○簿倫ブリン紉ニシ屈グ褒ハウ旗セン人名及ビ其他ノ實驗ニ據レバ。股骨頸ノ骨傷ハ。皆此繃帶

二由テ脚ノ短縮畸形ヲ爲サズ。全愈ニ至レリ○

此繃帶ノ善ナルヲ。實驗ニ據ルガ如シトイヘ氏。

尚其精細ヲ盡サザル所アルニ似タリ。拂郎察ノ

外科ハ。股骨頸ノ骨傷ヲ見ル毎ニ。悉ク正伸法ヲ

行フカ故ニ。此簡易繃帶ニテハ効ヲナスヲ十分

ナラズトセリ。此論全ク理ナキニ非ズ。何トナレ

ハ。鑑ハ全ク患者ノ意ニ隨フ者ナルニ由テ。伸挈

ノカ^ラ十分ナラザル^トアルヲ以テナリ○滑兒^ル電^{ダシ}

瀧爾^ル倔^グ名^人ハ左法ヲ稱用セリ

○第一能ク兩脚ヲ固定スルニハ。風領帕^{エリマキ}ヲ取り廣

ク疊ミテ。其正中ヲ兩踵下ニ置キ。其一半ヲ足心
 ニ送り。他ノ一半ヲ踵上ニ懸ケテ。其兩端ヲ左右
 ヨリ躡ノ屈處ニ上セ。又狀ニ交過シ後口ニ送り
 テ。又又狀ヲナシテ結合スベシ。**第五圖**若其帕長
 キ者ハ。更ニ之ヲ躡上ニ返シテ。又狀ヲナシ。足心
 ニ送りテ結合スヘシ。此法ヲ行フテ能ク兩足ヲ
 固繫スル片ハ。病脚不斷伸長セルヲ以テ燈ヲ用
 ヒテ。短縮ヲ防ク者ニ比スレバ。其効大ニ優レリ
 トス。然レ凡兩踝間ニハ厚枕子。或ハ特騷爾多デサワルト名
 ノ塞枕子ヲ置クベシ。然ラザレバ。兩踝互ニ摩挲

メ。患者耐フルヲ能ハザル者ナリ

○**第二**患者隨意ニ。脚ヲ動スヲ防ガンガ爲ニ。簿倫ブリン

紉ミシ倨グ褒ハウ旗セシ人ノ稱用セシ。革帶ヲ膝下ニ置クヲ緊

要トス。但簿倫ブリン紉倨褒旗ハ患者安靜ナラズ。或ハ

煩悶スル時ノミ之ヲ施セリ○臑下ニ長副木ヲ

置キテ。一ハ兩革帶ノ壓迫ヲ防ギ。一ハ全ク膝ノ

運動ヲ得サラシムルナリ

○簿倫ブリン紉倨褒旗グセシ人ノ繃帶ハ上ニ云ヘルガ如ク。患

者ヲ伸卧セシメ。病股ヲ無病股ニ固定スルノ法

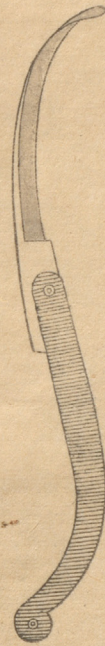
ナリ。蓋此法ハ既ニ一千七百七十五年及ビ七十

七年ニ於テ預傑斯爾名人ナル者彼ニ先夕チテ其
法ヲ用ヒシ一ヲ討論セリ。實ニ此發明ハ傑斯爾
ノ功ヲ奪フベカラズトス。○傑斯爾ノ法ハ乃尊
上ニ於テ患者ヲ水平ニ卧サシメ極メテ兩脚ヲ
伸ハシテ密接セシメ一扶者ヲメ患者ノ側ヨリ
兩手ヲ以テ腰ノ兩側ヲ握ラシメ伸長ノ念ヲ起
サシメズ。醫ハ患者ノ足下ニアリテ一手ヲ以テ
踵ヲ握リ一手ヲ以テ足背ヲ握リ緩緩徐徐ニ之
ヲ引キ病股ヲ半内方ニ回轉スルノ後他力ヲ借
ラズシテ傷骨端ヲメ其本位ニ復サシム。○傷骨

已ニ其本位ニ復スルノ後直^ナニ兩足ヲ一齊ニ保
 持シ。半幅ノ哆囉^ラ噠^{シヤ}ヲ折テ二重トナシ。胯骨ノ周
 圍ニ置キ。股骨突起ノ處ニ輪狀壓帕ヲ裝シ。兩内
 踝間ニモ亦輪狀枕子ヲ挾ムベシ。是無病股ハ即^ナ
 病股ヲ移動セシメザル。副木トナリテ。害ヲ爲ス
 ベキノ運動ヲ得ザラシムルニ在リ。

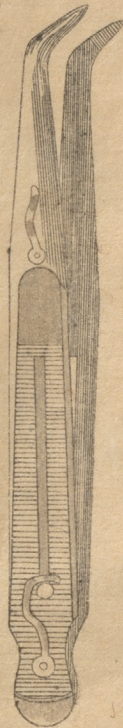
(Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 平, 分, 等, 人, 十, 五, 卷, 終, 三, 去, 又, 七, 七, 其)

第一圖 球頭毘私多里



第二圖 小鑷子

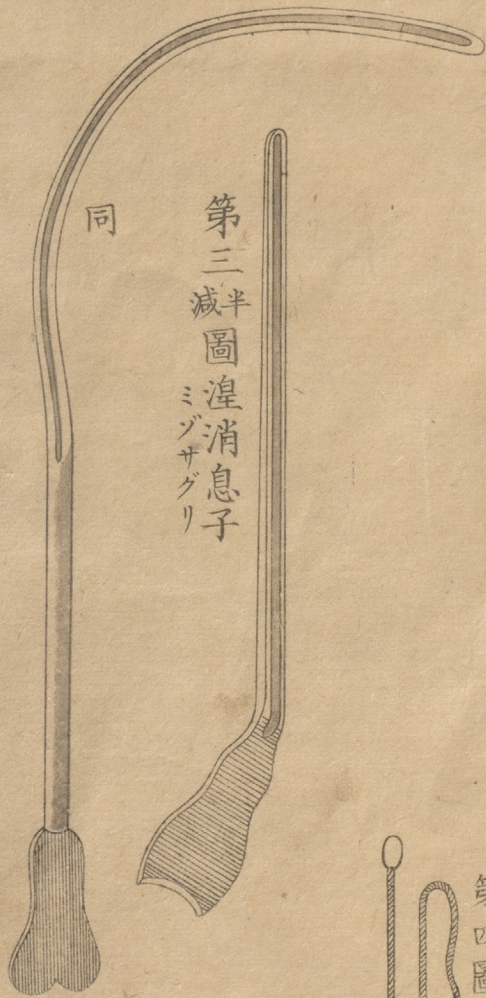
ピンセット



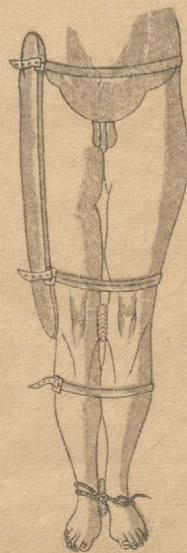
第三圖 半減 湟消息子

ミズサグリ

同



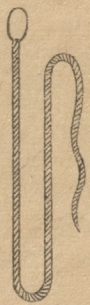
第四圖 甲



第四圖 乙



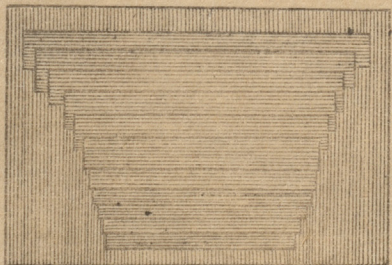
第四圖 丙



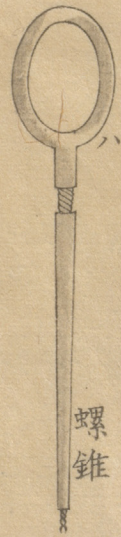
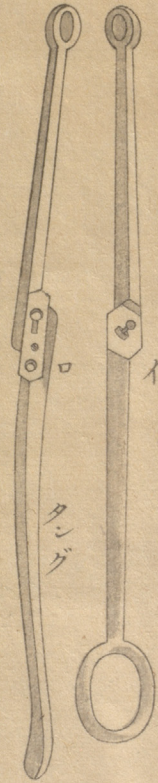
第五圖



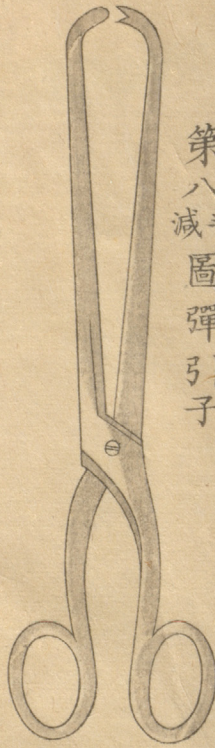
第六圖 壓定帕



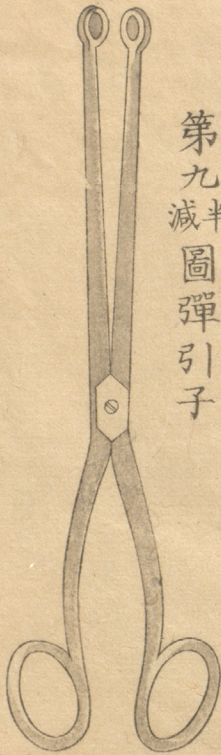
第七減半圖彈引子



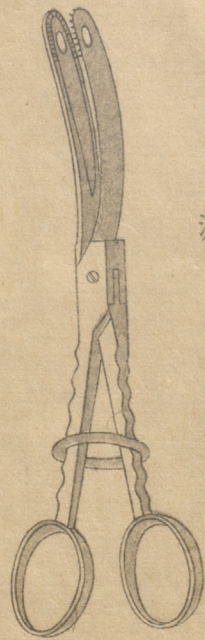
第八減半圖彈引子



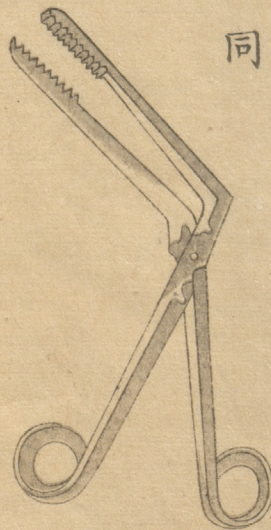
第九減半圖彈引子



第十減半圖鼻痔鑷子

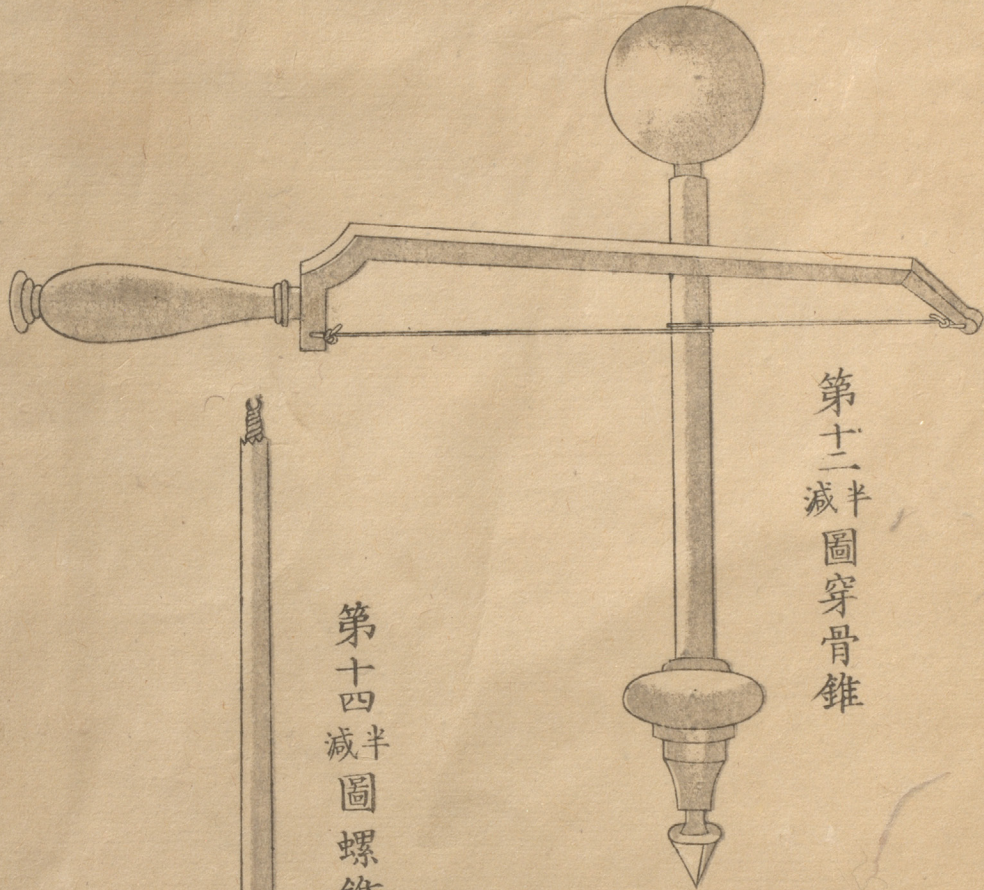


同

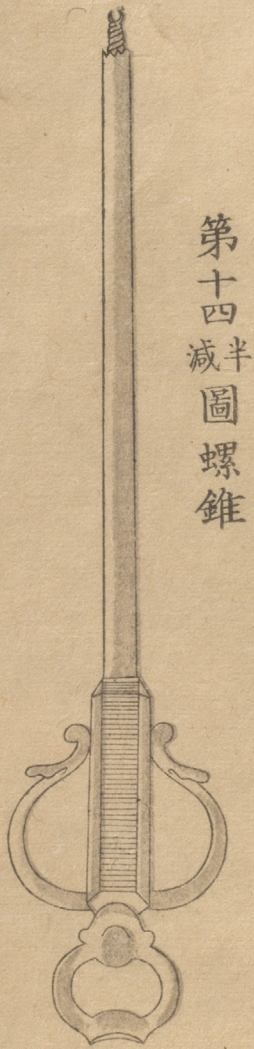


第十一減半圖鐵棍

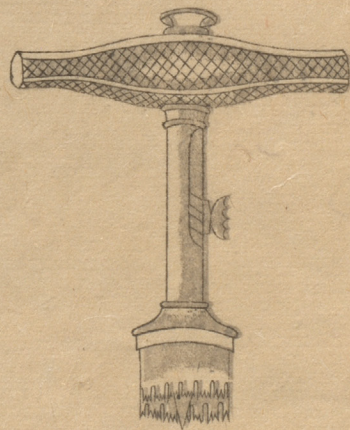




第十二半圖穿骨錐



第十四半圖螺錐

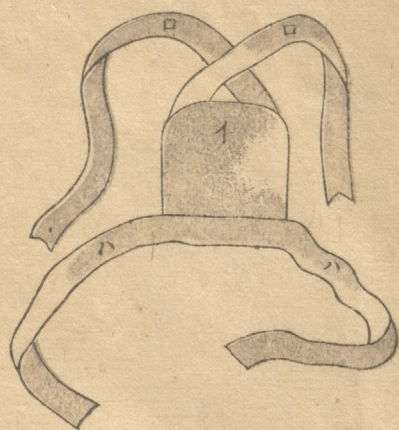


第十三半圖帽頭穿骨錐

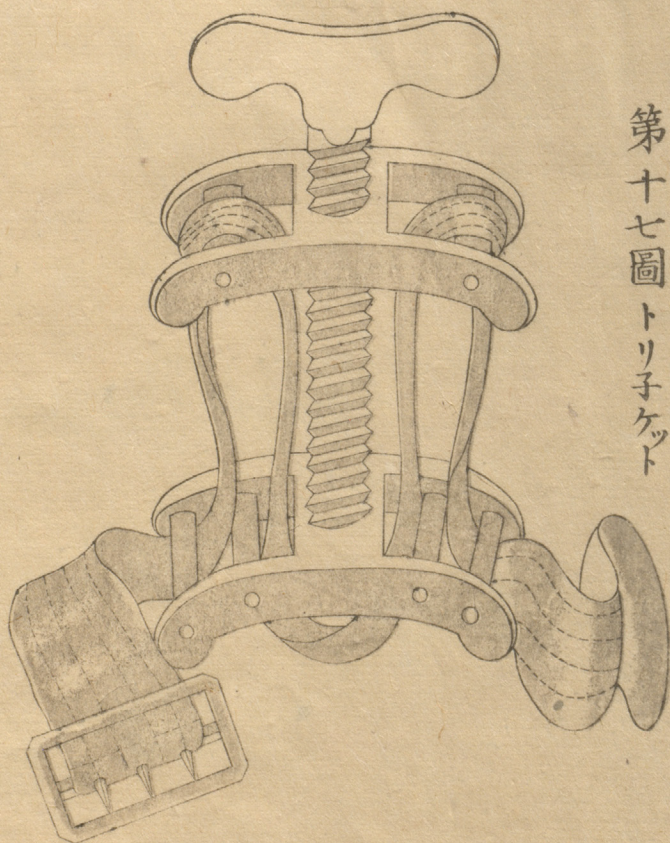
第十五半圖曲三稜鍼



第十六圖



第十七圖トリ子ケツト



樺郷菊池武貞模寫

117448569

